

4市連携で島・都市交流 自然と都市の“いいとこどり”発信

移住者の呼び込みを目的に、神戸市・芦屋市・淡路市・洲本市の4市は合同プロモーション事業『島&都市デュアル暮らしツアー』を展開。「デュアル」とは「2つの」を意味する言葉で、自然豊かな淡路・洲本と都市である神戸・芦屋は海を挟み隣接することから、「地方と都会」両方のいいとこどりをした暮らしができる」と提案している。渋谷や新宿でもイベントを開催するなどして首都圏での発信も行っている。



神戸の秘境の里山で過ごす!大人と子どもの夏休み体験
開催日:8/18(土)



漁師町の老舗魚屋さんが伝授!“さばける女”になるツアー
開催日:今秋開催予定

市民がツアープロデュース ここでしかできない暮らし体験を

この「デュアル暮らしツアー」は現地での体験ツアーが中心で、地元市民が“暮らしナビゲーター”として企画と案内役を担う。1年前に淡路島へ移住してデュアル暮らしを実践している女性ライターや、神戸に住

みながら淡路島で起業・運営支援を行っているNPO代表理事などナビゲーターの種類も様々だ。ツアーは自然栽培農家の協力のもとで収穫体験を実施するものや老舗の漁師に魚のさばき方を伝授してもらうもの、レトロモダンな芦屋のサロンで薬膳アドバイザーから和薬膳を学ぶものなど、受け入れる地域の人々と実際に交流しながらデュアルな暮らし体験ができる

ものばかり。

今後は子どもも参加可能な『心と体と五感をフル活用!淡路島の大自然で冒険遊び場体験』や『神戸のイメージを覆す“B面の神戸”でおなかいっぱい食べ歩き!』といったガイドブックに載らない場所を巡るツアーなどが予定されている。詳しい情報は同事業の公式ホームページ(<https://shimatoshi.jp>)にて。

茨木市内オールロケの映画制作が決定 川端康成の名作群を原案に

茨木市は市制70周年を記念して、映画「葬式の名人」の制作に全面協力する。映画は、少年時代を茨木市で過ごしたノーベル文学賞作家、川端康成の名作群を原案とした、オリジナルストーリーによる群像コメディ。周年記念事業を模索していた市の担当者が、茨木高校出身の脚本家、大野裕之さんに相談したところ、川端康成をテーマにした映画制作の提案があり、実現した。市は、制作費の経済的支援や市内ロケでの撮影における調整、広報活動の面で協力していく。

夏には、日本アカデミー賞受賞実績などがある、豪華制作スタッフ陣が茨木の地に

集結し、撮影がスタート。11月に市内でプレミア上映を行い、全国公開は来年の予定。市の担当者は「いわゆるご当地映画ではなく、世界中の人々に愛される作品にしたい」と話す。またふるさと納税を活用したクラウドファンディングを実施し、映画制作に共感する「仲間」を募っている。詳細は茨木市HPへ。



左から脚本家の大野裕之さん、福岡洋一市長、監督の樋口尚文さん。

箕面市の平均寿命 近畿で男性3位、女性が1位に

厚生労働省が4月に発表した「平成27年市区町村別生命表の概況」によると、箕面市の平均寿命は男性が82.5歳で近畿3位(全国7位)、女性は88.2歳で近畿1位(全国20位)となった。平成22年時点の前回統計では男女ともに全国50位以下。5年間で大きく延伸した。箕面市では全てのがん検診を無料で実施しており、受診率は常に府



※イメージ写真

内トップクラス。特定健康診査も平成20年度から無料実施し、平成28年度の受診率は36.6%で、府平均の30.0%を上回っている。市の担当者は、「健康対策を長年進めてきた結果、市民の健康意識が高まり、今回の結果に繋がったのでは」と話す。

安全運転の願いを込めた取り組み 子どもが描いた絵を載せて走るトラック

子どもが描いた絵やメッセージが、荷台の後面に大きく掲載されたトラックがある。「こどもミュージアムトラック」は、5年前から株式会社宮田運輸(高槻市)が始めた、交通事故や危険運転をなくす取り組みのひとつだ。ドライバーの似顔絵や「おとうさんしごとがんばってね」などの言葉も添えられている。

きっかけは、同社のドライバーが起こした交通事故だった。同社社長・宮田博文さんは、「子どもの描いた絵を背負って走っていると、事故を起こしたくないと思い、自然と丁寧な運転になり、安全運転につながります」と話す。また絵は、他者から見られている緊張感をドライバーにもたらす効果もある。他の車からの、無理な割り込みや車間をつめられるなども減ってきたという。



子どもの絵をトラックに掲載してから5年。1台も事故を起こしていないという。

全国に広がる やさしい気持ち

この取り組みに運送会社や物流会社など70社が協力し、「こどもミュージアムプロジェクト」として全国に広がっている。さらにこの運動を多くの人に知ってもらおうと、9月2日には、「第1回こどもミュージアムフェスタ2018」が大阪万博記念公園で開催される。子どもたちの絵でラッピングされたトラック20台以上が展示されるほか、地域の子供たちが描いた絵のコンクール発表会、コンサートやキッチンカー、交通安全教室などを実施。同プロジェクト担当の後藤さんは、「イベントを通して、誰の心にもある“やさしい気持ち”を呼び起こし、ドライバーだけではなく、絵を見る周りの人にも心のゆとりをもってもらえたら」と交通事故の減少への思いを語った。



イベント内で発表される絵のコンクール受賞作品は、トラックの荷台や自動販売機にラッピングされる。

フィッシング詐欺に注意しよう

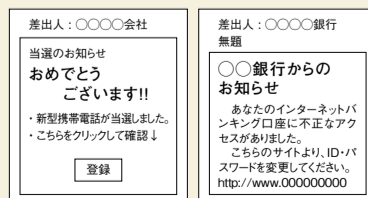
協力:大阪府警察

【聞き出そうとする個人情報の例】

クレジットカード番号、キャッシュカード番号、暗証番号、住所、氏名、電話番号、オークション、プロバイダ、電子メールなどのID・パスワードなど

【具体的な手口の例】

1. 犯人が、実際にあるインターネットバンキングやショッピングサイトなどの本物そっくりのウェブサイトを作る。
2. その後、右記のようなメールを送り付ける。
3. 添付されたURLから、偽のサイトへ誘導して、パスワード・クレジットカード情報などの個人情報を入力させ、情報を盗む。



フィッシング詐欺とは

銀行やクレジットカード会社などの企業を装った電子メールやホームページを用いて個人の金融情報などを聞きだそうとする手口のこと。

【注意する点】

- メールに添付されたリンク先を不用意にクリックしない。(メールアドレスの差出人の名前は簡単に詐称することができる)
- メールで個人情報の入力を求めてきたら、要注意!送られてきたメールが本物かどうか確かめる。
- 金融機関のID・パスワードなどを入力する場合は、金融機関から通知を受けているURLを直接入力するか、正規のURLをお気に入り登録などしておいて、常に正規のページにアクセスすることを心がける。
- ショッピングサイトなど、本物そっくりのサイトがあるので、URLなどが正しいかよく確認する。

「このサイトは、もしかしたら偽物かも…」と疑うようにし、不用意にクレジットカード情報などを入力しないように気をつけよう。